

実践だより



🌸 理事長より卒業生へメッセージ

🌸 学長より卒業生へメッセージ

🌸 学生コラム

～部活・サークル編～

ATLAS チアリーダーディング部

日本舞踊研究部

マンドリンクラブ

～卒業生編～

学友会執行委員会

学生会館

～J-STAFF 編～

入試スタッフ

就職支援スタッフ

🌸 ご退職の先生からのメッセージ

🌸 大学・短期大学部からのお知らせ

輝かしい未来を 祈って

実践女子学園理事長
山本 章正



皆さん、ご卒業おめでとうございます。学校法人実践女子学園を代表して、心よりお祝い申し上げます。

本学を巣立って、これから様々な場へ晴れやかに羽ばたく皆さんに、私が人生において大切だと思うことを、一つお伝えしたいと思います。

人生には就職、結婚を始めとして岐路に立つ場面がたくさんあります。また、毎日の仕事や生活でも、多くのことを決定します。その時に大切なことは、「考え抜いて、自分で決める」ことです。

物事を決めるときの選択肢は無数にあります。正解は一つではありませんが、決める前に視点を整理して観察すると、よりよい決定に導くことができると言われます。ヒントとなる視点には、「長期・短期・目先」「結論・プロセス」「メリット・デメリット」「拡大・縮小」「チャンス・リスク」「大胆・慎重」「前例・新規」などがあります。

そして、整理した視点での観察をもとに、決定を積み重ねていくことで、判断力や決断力は向上していきます。人生の岐路での決定、仕事上の判断、緊急時の咄嗟の決断は、小さなことでも、考え抜いて決定する場面を、より多く経

験することで培われるのです。

現在の決断の一つ一つが未来を形作ります。人生にリハーサルはありません。皆さんの人生を最大限に輝かせるために、また、皆さんが幸せに生きるために、「自分で決める」ということを、心にとどめてほしいと思います。

本学園は、建学以来120年間、一貫して自立自営しうる実践的な力を持った女性を育成することによって、女性の社会的な地位の向上と女性の社会進出に尽力してきました。今後もこの思いを絶やすことなく、皆さんにとって、人生の節目に、ぜひ立ち戻りたい生涯の母校となる学園であり続けたいと思います。

女性の力が求められる今、「女性が社会を変える、世界を変える」という学祖下田歌子先生の思いを受け継ぐ皆さんが、一人の人間として確かな意思を持ち、最大限に輝く豊かな人生を送られることを期待します。

皆さんの輝かしい未来をお祈りしてお祝いのメッセージとします。

ご卒業、まことにおめでとうございます。

チャレンジ！

学長

城島 栄一郎



卒業生・修了生の皆さん、記念すべき令和元年度の卒業・修了おめでとうございます。

今日はこれまでの人生で最も大きい節目の日です。生まれてから、小学校、中学校、高校、短大・大学生活まで、皆さんは家族と社会に支えられここまで成長してきました。社会へ羽ばたく今日この日の後は、否応なく今度は皆さんが家族と社会を支えていく立場にかわります。その気概をもって社会人として力強い一歩を踏み出してください。

学祖下田歌子先生が「女性が社会を変える、世界を変える」という建学の精神のもと、「品格高雅にして自立自営しうる女性の育成」を教育理念として、実践女学校・女子工芸学校を設立し、昨年5月に創立120周年を迎えました。これは机上の理論だけではなく実践的な知識・技術を身に付け、自立した女性として社会に貢献し活躍できる人材を育成することを目指したものです。皆さんは、まさにこの精神を受け継いでいます。自信をもって社会に出てください。

地球規模で世界を見ると、増え続ける人口問題や環境問題、グローバル化とボーダレス化が進んでいます。日本では一段と少子高齢化が進

行し、困難でも解決していかなければならない課題が山積しています。これらの課題を乗り越えて生き抜いていくためには、本学で学び身に付けた能力をしっかりと生かし、さらに自分自身を磨き続けることが必要です。

人生100年時代に膨大な時間を持っている皆さんの可能性は無限です。永い人生を充実したものにし、社会に貢献し、輝いていくために心掛けてほしいことを挙げます。

- (1) 将来に対して夢を持ち目標を設定し、失敗を恐れずチャレンジし続ける。
- (2) グローバル化、ボーダレス化が進む社会を幅広い視点から見る。
- (3) 健康増進を心掛けて体力をつける。
(最後にものをいうのは体力です。)

本学が皆さんの母校です。折々に先生方と連絡を取って母校を訪ねてください。私たち教職員は皆さんとの再会を楽しみにしています。また、大学時代の多くの友人とも連絡を取り合っ、さらに深い友情をはぐくんでください。

終わりに、皆さんの今後の社会人としての活躍と、実りある人生をおくられることを心からお祈りしています。

～部活・サークル編～

ATLAS チアリーディング部



ATLAS チアリーディング部での思い出

大学・食生活科学科 4年 新宮 巴菜

私は、約3年間ATLASチアリーディング部に所属していました。大学の部活は学生主体で活動するため、想像以上に大変なことが多かったです。しかし、指導者がいない中でも日々の練習で成長を感じられ、大会やイベントに出る度にチアリーディングの楽しさを再認識することができました。やめたいと思った時も「続けていればきっといつか自分の力になる」と信じて頑張ることができました。部活は、技術だけでなく人間としても成長させてくれました。

部員は、部活に入っていなければ出会っていない人たちばかりです。特に、同級生

の2人とは引退後も遊ぶ仲となりました。

顧問の先生、コーチ、部員、学校の教職員の方、企業の方、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

顧問の先生より

ATLASチアリーディング部の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

部員数が少ない中で、二つのキャンパスにいるメンバー同士が連携し、練習の場所と時間を確保しながら、大会やイベントに備えるのはとても大変なことだったと思います。しかし、強い絆で結ばれた皆さんの笑顔一杯の演技は、観る人々にたくさんの元気や勇気を与えたことと思います。私もその中の一人でした。

伝統ある実践女子大学で由緒あるATLASのチアリーダーを務めたことを誇りに、社会人となっても持ち前の笑顔を忘れず、元気で活躍ください。

大学・生活文化学科教授 松田 純子

日本舞踊研究部



日本舞踊研究部での思い出

大学・美学美術史学科 4年 忽那 夏希

今年で創部55周年を迎える日本舞踊研究部では、これまで学内外の様々な場で日本舞踊を披露してきました。日本舞踊研究部に4年間在籍していましたが、部活動で過ごした日々は、私にとって青春の時でした。このように充実した学生生活を送ることが出来たのは、多くの方々を支えて頂いたおかげです。私たちを導いてくださった講師の先生、切磋琢磨した部員たち、活動にご協力頂いた卒業生の先輩方、応援し支えてくださった顧問の先生や職員の方々、そしてこれまで私たちの演舞をご覧頂いたお客様に、心より感謝致します。今後も55

年の伝統を絶やさぬよう、そして青春の場が続くよう、実践女子大学の卒業生として微力ながら尽力させて頂ければと思います。

顧問の先生より

4年生の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。歴史ある日本舞踊研究部に入部され、この4年間、皆さんは非常によく努力され、日々の練習を重ねられましたね。その成果はさまざまな形で発表されてきました。

常磐祭をはじめ、地域の方々との交流、創立120周年記念のJ-Fes、そして日本を遠く離れてクロアチアでの踊りの披露と、本当に素晴らしいご活躍でした。どうぞこれらのご活躍を誇りとし、これからの人生を歩まれますように。皆さんの実りある幸多き未来をお祈りいたします。大学・英文学科教授 佐々木 真理

マンドリンクラブ



マンドリンクラブでの思い出

大学・国文学科 4年 岡崎 湖々

私がマンドリンクラブに入るきっかけとなったのは、渋谷キャンパスでお昼に行われていた新入生歓迎会でした。1年生で何かサークルに入りたいと考えていた時、心地よい音色が聞こえてきました。その音色がマンドリンで、私はすぐに入部を決めました。優しい先輩方に教わりながら、最初はマンドリンとクラシックギターを弾いていました。2年生になってからはギターを中心に弾き、3年生では部長を務めました。私が1年生の時は部員が6名しかおらず、1パート1人でしたが、徐々に部員が増え、引退前の定期演奏会では14名で満足いく演奏をすること

ができました。学年、学部の違いと繋がれたのもサークルのおかげです。先生、外部コーチ、学生支援の方々にも支えられ、4年間の充実したサークル活動を終えることができました。ありがとうございました。

顧問の先生より

4年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんはクラブの中心として、コーチの先生方や卒業生の方々の協力を得ながら活発に活動していました。

その甲斐あって部員も増え、新入生歓迎の時やハロウィーンの祝い、そして桃天館で行った定期演奏会など様々な発表の場で、皆さんは素晴らしい演奏を披露してきました。

どうかマンドリンクラブでの思い出を胸に社会に羽ばたいていってください。皆さんの今後のご活躍をお祈りしています。大学・英文学科教授 稲垣 伸一

～卒業生編～

学友会執行委員会

大学・現代社会学科 4年
山内 恵理

私は学友会執行委員会で、大学内のイベントの企画・運営等に携わっていました。実行力を身につけることを目的に所属を決めた組織でしたが、就職活動の際に学生生活を振り返って、この学友会執行委員会の活動を通して、当初予想していたより多くの経験やスキルを得ることができたと改めて感じました。

もちろん、活動をしていく上で大変なことも多く、正直辞めてしまおうと思ったこともありましたが、しかし、企画やイベントが成功した時の達成感は自信に繋がり、その自信が大学生活に良い影響を与えているという事実が支えとなり、無事に学友会執行委員の任期を終えることができました。このような活動に関われたこと、そして最後までやり遂げられたことを誇りに思っています。

最後に、これまでお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。



学生会館

大学・生活文化学科 4年
北原 美沙

私は学生会館で大学4年間を過ごしました。入学したばかりの頃は初めての寮生活に戸惑いもありましたが、季節のイベント等を通じて、学年や学科の枠を越えて友人をつくることができました。何より、仲の良い友人たちと食堂で話したり一緒に食事したりといった時間は学生会館ならではの経験で、とても楽しかったです。

また学生会館では朝夕に食事が提供されるため、特に教育実習中は自炊の心配をすることなく実習に臨めました。そんな美味しい食事を作ってくださり、いつも私たちのことを気にかけてくださる管理人さんがいたからこそ、安心して生活できたのだと思います。

管理人さんご夫婦や友人たちのお陰で、私は充実した4年間を過ごすことができました。学生会館での思い出は一生の宝物です。ありがとうございました。



～J-STAFF 編～

入試スタッフ

大学・英文学科 4年
佐藤 佑香

高校3年生の時、他女子大のオープンキャンパスで出会ったキラキラしたお姉さん。私もこうなりたいという思いを抱きました。これがJ-STAFFを始めたきっかけです。

始めた当初は自分に自信がなく、事務的な業務しか行おうとしませんでした。しかし、何度もオープンキャンパスに参加することで自信が付き、私と話した高校生が実際に入学して後輩になってくれたという経験もしました。今では、人前で話すトークライブという学生主体のイベントに積極的に参加するようになり、J-STAFFを統括し企画なども行う幹部という立場にもなりました。自分自身が大きく成長できたのはJ-STAFFでの経験があったからです。関わって下さった全ての方に感謝申し上げます。また、オープンキャンパスをさらに盛り上げていくために、今後も後輩のサポートを行い、私自身は卒業生という立場で参画していきたいと思っています。



就職支援スタッフ

大学・現代社会学科 4年
渡辺 紗貴

J-STAFFの経験は後輩たちとの交流のきっかけになったことはもちろん、自分自身の就活を振り返るいい機会だったのではないかと思います。また、就活期の初心を思い返したことで、春から働く内定先への想いの強さを改めて実感できました。そんなJ-STAFFの約4か月間という短い期間の中で最も印象に残っていることは、トークイベントの実施です。企画の提案から当日のイベント運営までを中心となって行ったことは、非常に大きな達成感へとつながりました。特に、イベントをきっかけに就活への意識の高まりを感じたという後輩たちの声が多く、また相談者が以前よりも増加したということがとても嬉しかったです。このような学年の壁を越えた就活支援の輪が、今後も発展していくことを祈っています。

短期大学部・英語コミュニケーション学科 2年
豊森 千優

私は、自分が就職活動で学んだことや、感じたことを後輩たちに素直に伝えたいと思い、J-STAFFの就職相談を引き受けることを決めました。

私自身もよくわからないまま就職活動を始め、教職員の方に相談しながら進めたので、こんな自分で後輩たちの力になれるのかとても不安を感じていました。しかし、相談に来てくれた後輩に自分の言葉で素直に話すことで、後輩から「話せてよかった」や「ありがとうございます、がんばります！」など言ってもらえるようになり、やりがいを感じるようになりました。

このJ-STAFFの活動を通して、今まで出会わなかった人たちと関わったり、自分の経験をもとにさまざまな人の役に立つことができ、とてもうれしく感じました。卒業後、社会人として働く際にも、J-STAFFで学んだことを生かし、活躍していきたいです。



ご退職の先生からのメッセージ



大学・文学部 国文学科
横井 孝 教授

ミレニアムが騒がれた2000年に赴任、まるまる20年実践女子大学に勤めたこととなります。『源氏物語』を学生諸君と一緒に勉強することが義務づけられているという意識はありましたが、前任者の野村精一先生、前々任者の阿部秋生先生、いずれもその道の大先輩です。赴任の際には身の引き締まる思いをしました。

両先生が所属していた文芸資料研究所にも身を置いて、本学所蔵の古典籍でずいぶん学ばせて頂きました。もし私どもに研究業績などというものがあるとしたら、そのほとんどは実践女子大学で獲得したものです。講演会・展覧会などを開催して、大学の知というものを社会に還元するお手伝いもしましたが、この大学に呼んで頂いたご恩返しは、少しはできたでしょうか。ゼミの諸君とは卒業合宿と称して毎年京都に行きましたが、これも楽しい思い出ばかり。とにかく今は、感謝の気持ちしかありません。



大学・生活科学部 食生活科学科
秋田 修 教授

平成18年に食生活科学科教授として採用されてから14年が過ぎました。着任後は、大学時代や前任の職場で専門としてきた微生物学に基づいて、醗酵食品、醸造食品、酒類を卒業論のテーマにしてみました。そのために酒類製造免許も取得しました。毎年、醸造食品や酒類に興味を持つ学生が志望してくれ、卒業生は総勢175名となりました。また修士2名、博士1名の論文指導で少しは研究といえるものにも取り組みました。前任の百瀬教授が日野移転後から20年間教えてこられた微生物学や醸造・発酵学を引き継いできましたが、醸造学は古い学問と認知されたのでしょうか、34年間続いた歴史が閉じられることを寂しく思います。これからはゲノム栄養学や食品機能学のような最先端の食科学が時代を切り拓いていくのだと思います。14年間の在籍中にお世話になった多くの教職員・学生の皆様に感謝申し上げますとともに、食生活科学科、実践女子学園の益々のご発展を祈念いたします。



大学・生活科学部 食生活科学科
阿尻 貞三 教授

先日、30年前の副手さん（当時の職位です）からメールをいただき、そんなに長く実践女子学園に勤めさせていただいていたことに気づかされてしまいました。初めて日野の大学校舎を訪れた際には、キャンパス中央にある緑の芝生の大きなグラウンドに驚かされてしまいました。都会の狭いキャンパスでの生活からすれば、新鮮であり、これからの教員生活の期待に胸が膨らんだ覚えがありました。就任当時は一般教育課程があり、その生物学の教員としてスタートしました。それまでの大学とは違い、女子だけという大学生活に慣れるまでにはしばらく時間がかかりました。そのような時から、多くの先生方、副手さん、助手さん、事務の方に大変お世話になって、ようやく定年を迎えることができました。長いようで、短く感じております。

この間、大学および短大の改革の波にのまれ、大学から短大への移籍、さらにまた大学へ移るとい形となりました。途中大病もしてしまい、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。おかげさまでここまで乗り切ってくることができました。皆様のご支援があったからこそだと思います。実践女子大学・実践女子大学短期大学部のますますのご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。



短期大学部・図書館学課程
松尾 昇治 教授

私が短大図書館学課程教授に着任したのは2007年春でした。公共図書館勤務34年の経験を踏まえ、図書館学受講生に教育する機会を与えて頂き、充実した13年間を過ごすことができました。思えば、日野神明キャンパスには郊外の長閑さがありゆとり感もありましたが、高層ビルの建ち並ぶ大都会に移転した渋谷キャンパスになってからは、都会の活動に飲み込まれるような張り詰めた感覚を抱きつつ仕事をしてきたように思います。2014年から4年間短教センター長を務め、大短協議会の職責や短大の教育改革などにも取り組むことができました。また、日本語コミュニケーション学科の兼任教員として、学科の学務に携わるとともに、「卒業研究」ゼミを2年間担当させて頂き、「本の世界」をテーマにゼミ生と楽しく授業をすることができました。在職中は、皆様のご協力とご支援により職務を全うすることができ、多くの思い出を頂きました。心より感謝申し上げます。



大学・教育研究センター
山田 佳子 特任教授

私は、公立中学校を校長として退職し、非常勤講師として7年間、平成30（2018）年8月から特任教授として1年半勤務いたしました。特任教授は、教師を目指す学生の相談、指導が主な仕事です。特任教授になった時の私の課題は、教師志望の学生のサポートをどう計画的、組織的に行うかということでした。幸いなことに、教師を目指し入学した学生と学習を始めることができ、そこから輪が広がりました。今年教職に就く学生もおり、また教師を目指し講師などの道に進む学生もいます。教師は児童生徒の人生に影響を与え、豊かな触れ合いのある職業です。今後も実践女子大学から子供を大切にしている教師が多く生まれることを心から期待しています。この間、意欲ある学生と出会うことができましたことは、私の大きな喜びであり宝物になりました。今後の学生の皆さんの成長を楽しみにしています。また、親切に接して下さった先生方、助手さんや事務職員の皆様に心から感謝を申し上げます。



ご退職の先生からのメッセージ



大学・生活科学部 現代生活学科
野津 喬 准教授

2014年4月、現代生活学科がスタートしたその年に着任してから、あっという間の6年間でした。

前職が国家公務員の私にとって大学で教鞭をとるのは初めての経験で、最初は全てが手探りでした。しかし、毎回の講義終了時に学生さんに書いてもらうコメントなどを参考に少しずつ改善に取り組んだ結果、何とか自分なりの授業スタイルを確立できた気がします。私自身、授業を通じて成長させていただいたと感じています。

素直でまじめな学生さんが多く、やりがいを持って教育をさせていただきます。授業やゼミを通じて「成長できた」、「自信がついた」という学生さんの言葉を聞くのは、私にとって大きな喜びでした。

また事務職員、助手の皆様には、委員会活動など本当にさまざまな場面で助けていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。またご指導いただいた先生方にはもちろんのこと、感謝の思いでいっぱい입니다。

今後も実践女子大学のますますのご発展をお祈りしています。



大学・人間社会学部 人間社会学科
松下 慶太 准教授

人間社会学部に赴任してから10年以上経ちますが、新しい学部であり、また日野から渋谷へのキャンパス移転もあり、いつも新しい環境で刺激を受けながら教育、研究をすることができました。プロジェクトやワークショップをすることが多く、活発な学生たちと一緒に作りながらその成長を目の当たりにできたことは、非常に貴重な機会、時間でした。学生には、新しいことにチャレンジすること、越境することの大切さ、「変わらない」のは常にチャレンジし、変化し続けることによって成立していることを語ってきました。一方で、そう言っている自分がそれを実践できているのか？そういう思いがあり、今更思い切ってチャレンジすることにしました。ここで一旦道は別れますが、また教職員のみならず、学生のみさんとお会いして、それまでのお互いの成長、学びを語り合えるように交差できればと思います。本当にありがとうございました。



大学・人間社会学部 人間社会学科
織田 弥生 専任講師

2017年4月に専任講師として着任し、3年間勤務させていただきました。実践女子大学では1年生から4年生までの演習や講義科目を担当いたしました。1年生を対象としたアカデミックスキル(実践入門セミナー、演習I)の授業では、1年生をスキルアップし、満足してもらえる授業を行うため、試行錯誤の連続でした。また私は心理学が専門ですが、人間社会学部は幅広い学問を学べる反面、専門的な内容に入っていく時期が遅くなるため、ゼミ生に心理学の基礎を身に付けてもらうのが大変難しいことでした。しかしゼミ生の努力の成果で、この春無事に卒業論文を執筆した4年生を送り出すことができ、どうか責任を果たすことができたかと胸をなでおろしております。不慣れなため、様々な方にご指導頂きましたが3年間でした。誠にありがとうございました。最後になりましたが、貴学の益々のご発展を心より祈念いたしております。



大学・短期大学部からのお知らせ

実践桜会からのご案内

◎「一般社団法人教育文化振興 実践桜会」には、39支部（ニューヨーク・英国を含む）と、6科会が存在します。在学生への支援そして公益的な事業として同窓生だけでなく広く皆さまの生涯学習を応援する活動を行っています。卒業生の名簿管理をしていますので、クラス会・同窓会にご活用ください。

◎住所・氏名・連絡先等が変わった時は、必ずお知らせください。

〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-40

tel 03-3407-7459 fax 03-3499-0835

<http://www.j-sakura.org>



2019年度 修了生・卒業生数

大学院	5名
博士前期課程・修士課程修了	
文学研究科	
美術史学専攻	2名
生活科学研究科	
食物栄養学専攻	2名
生活環境学専攻	1名

短期大学部	201名
日本語コミュニケーション学科	90名
英語コミュニケーション学科	
観光ビジネスコース	64名
国際コミュニケーションコース	47名

大学	1,096名
国文学科	136名
英文学科	118名
美学美術史学科	84名
食生活科学科	
管理栄養士専攻	89名
食物科学専攻	77名
健康栄養専攻	45名
生活環境学科	100名
生活文化学科	
生活心理専攻	39名
幼児保育専攻	52名
現代生活学科	58名
人間社会学科	163名
現代社会学科	135名

総数 1,302名

大学・短期大学部からのお知らせ

各種証明書の申請について

卒業生の方を対象に、各種証明書の送付サービスを行っています。詳細はホームページをご参照いただけますようお願いいたします。尚、事務窓口・電話・FAX・メールによる各種証明書のお申し込みは受け付けできませんのでご了承ください。

※ご不明な点は、大学・短期大学部ともに下記までお問い合わせください。

学務部庶務課（日野キャンパス） tel 042-585-8817

生涯学習センターからのご案内

生涯学習センターでは各種講座をご用意しています。「生涯学習講座」には、卒業生・本学在学学生と保護者の登録料免除、割引制度があります。

また、2020年度から新しく

●「実践キャリアアッププログラム」マネジメントリテラシーコース

●「専門講座」（国際社会とホスピタリティ）

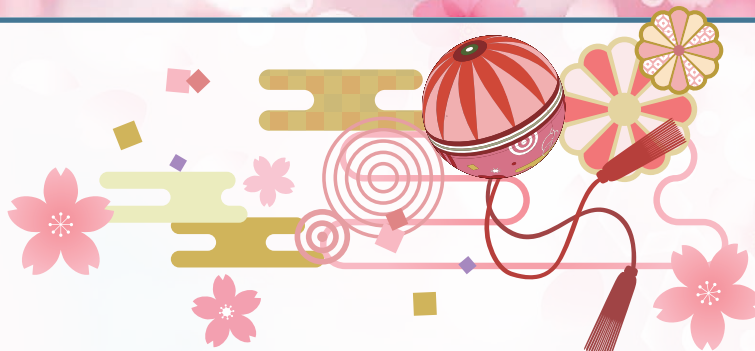
がスタートします。学生と共に学ぶ「リカレント授業」も引き続き開講いたします。皆様のご受講をお待ちしております。

※日時、申込方法等詳細は当センターホームページをご覧ください。

※ご不明な点は下記までお問い合わせください。

実践女子大学生涯学習センター

〈日野キャンパス〉 tel 042-589-1212



卒業後の図書館利用について

図書館（日野キャンパス・渋谷キャンパス）は、卒業後も利用することができます。

ご希望の方は卒業生として利用者登録ができますので、図書館窓口までお申し出頂るか、図書館利用証申込書（図書館HPからダウンロード可）を下記まで送付してください。

実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館

〒150-8538 渋谷区東1-1-49

郵送の場合は、渋谷キャンパスで一括して

受け付けています。



仙石原実習所のご案内



お部屋がキレイになりました！

水回りが使いやすくなりました！

源泉100%！



食事(朝食)

食事(夕食)

学園の厚生施設として、都心からアクセスが便利な箱根町の仙石原に実習所があります。卒業生の皆様も利用可能ですので、卒業生同士やご家族でぜひご利用ください。卒業後、お一人でゆっくりくつろいでいただくことも可能です！料金は卒業生価格（例：1泊2食付4,250円）です。

【申し込み・問い合わせ先】

学校法人実践女子学園 総務部

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1

tel 042-585-8800（平日9:00～16:45）

※空室状況は学園ホームページでもご確認いただけます。

★近隣観光スポット★

箱根ラリック美術館、箱根ガラスの森美術館
星の王子さまミュージアム
恩賜箱根公園、芦ノ湖 など

編集後記

ご卒業、ご修了される皆さんおめでとうございます。

本学で過ごした日々はいかがでしたか？ここでの学びや、友人・先生方との出会いは、これから社会で活躍される皆さんにとって、自信や励みになることと思います。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。東京だけでなく、日本中が活気溢れる中、社会人としての第一歩を踏み出す皆さんの活躍を大いに期待します。

また、ご退職される先生方につきましては、お忙しい中、原稿をお寄せいただきましてありがとうございます。先生方の今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

訃報

2019年12月16日、文学部国文学科 近藤みゆき教授が御逝去されました。
近藤先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

学生総合支援センター

実践だより vol.137

2020年3月20日 発行

実践女子大学
実践女子大学短期大学部

【渋谷キャンパス】 文学部・人間社会学部・短期大学部
〒150-8538 渋谷区東1-1-49

【日野キャンパス】 生活科学部
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1

<http://www.jissen.ac.jp/>